

# POWER FILE ★ 1143



三井アウトレットパーク滋賀竜王から公開生放送2DAYS

## 森脇健児のサタデースタジアム & ミキの兄弟でんぱ!

ショッピングやイベントの情報満載、笑いも満載の公開生放送。

滋賀最大級のショッピングスポットにラジオがお出かけ! 4月22日(土)・23日(日)に、KBS京都ラジオの人気番組を三井アウトレットパーク滋賀竜王から公開生放送 & 公開収録しました。レジャーグッズやスポーツ用品、季節のファッションといったショッピング情報から、休日におすすめのイベント情報まで。多彩な情報を笑いたっぷりのトークにのせて発信。三井アウトレットパーク滋賀竜王が沸いた、熱い2DAYSとなりました。

助っ人芸人も参戦し、パークの楽しさを元気に発信したサタスタ。

22日(土)は「森脇健児のサタデースタジアム」(土/12時~13時)を公開生放送。森脇健児はジャージ・スタイル、かみじょうたけしはプロ野球チームのユニフォーム姿と、二人はキャラにぴったりのスポーティーなファッションで登場しました。公開生放送ならではの助っ人として、若手女性芸人のドキドキ純情ガールズも参戦。ステージに花を添えました。



当日は三井アウトレットパーク滋賀竜王が京都水族館、京都鉄道博物館との共同キャンペーンを展開中とあって、京都水族館からのイベント情報も発信。ドキドキ純情ガールズは、特別イベント「京都鉄道博物館がやってきた!」をレポートしました。京都鉄道博物館の上田さんに話を伺いながら、パーク内のパネル展示や鉄道模型などを紹介。実際に模型を操作している子どもたちにもマイクを向けました。

ステージではゲストトークを展開。牧場直営のジェラート店、湖華舞の古株店長にお店についてインタビューしながら、イチオシのジェラートを試食。その濃厚な味わいに感動です。さらにスポーツショップ3店舗の担当者にも、それぞれのおすすめアイテムをご紹介いただきました。その中から、走る男・森脇が「ぜひ使ってみよう」と思った逸品をチョイス。優れモノのスポーツアイテムが次々飛び出すコーナーとなりました。



さまざまな情報を盛り込んでお届けした1時間。公開生放送のエンディング後も、ドキドキ純情ガールズとかみじょうによるネタ披露や楽しいトークで、お買い物客で賑わうスポットにさらなる活気を呼び込みました。

人気コンビ登場でステージ周辺は騒然! 収録やオフエアライブも。

そして23日(日)は、今大注目のコンビによる「ミキの兄弟でんぱ!」(日/13時~14時)が番組初の公開生放送。生放送終了

後は引き続き、翌週30日(日)放送分の収録も行いました。

ステージ周辺は、オンエア前から数百人のギャラリィが集まる盛況ぶり。お目当てのミキが登場すると、若い女性ファンから黄色い歓声が飛びました。さらにこの日は芸人仲間のダブルアートもやってきて、4人でステージを盛り上げました。



「兄弟でんぱのかたるを作ろう」など番組の名物コーナーを賑やかに展開。「だってお兄ちゃんだもん!」コーナーでは、ミキ兄弟がファッションセンス対決を繰り広げました。部屋着のような私服で周囲の目をくぎ付けにしている兄・昴生を、おしゃれ男子に変身させる企画。事前にパーク内のショップ、アバハウスで昴生と弟の壱生がそれぞれアイテムをチョイス。完成させたコーディネートは、アバハウスの福本店長がジャッジするというものです。結果は昴生が勝利しましたが、着替えてみるとやたら気になるサイズ感。かたるのコーナーで「ちっちゃない? やっぱこの服ちっちゃない?」とダブルアート真べえに読まれてしまいました。



そんなダブルアートは、ステージそばに特設された京都水族館「クラゲstudio」をレポート。展示中のクラゲや、コラボスポットをめぐるイベント・メモリアルラリーなどについて、京都水族館の山本さんにお聞きしました。また、メモリアルラリーの特典でもあるマッチャハウスのほうじ茶ティラミスを試食。京都鉄道博物館からのインフォメーションや会場ボックスで募ったメッセージなども紹介し、爆笑の連続のうちにエンディングへ。その後も引き続き、翌週分の公開収録を行いました。



この回でも、会場メッセージを紹介しつつ番組コーナーをスペシャルバージョンで展開。「こーせいあーせいやってみ〜」では、ティファールの鵜飼店長を迎えて、お店の人気商品を当てるクイズをしたり、コンビ対抗でクア・アイナのアボカド厚切りチーズバーガーの食リポに挑戦し、鈴木店長にジャッジしてもらったり。終始、笑いっぱなしの公開収録となりました。

その後もステージで、オフエアのお笑いライブを実施。ダブルアートとミキが漫才を披露し、勢いある笑いの世界をギャラリィにプレゼントしました。イベントが終了したのは15時30分頃。ツイッター上でも「楽しかった!」「また、こんなイベントやってほしい!」「笑いっぱなしだった!」など、うれしい啖声飛び交うイベントとなりました。

